

## ■ 概況

2/29～3/6のNYMEX・WTI先物市場は78.15～79.97ドルの範囲で推移した。

3月7日は、この日発表の1～2月の中国貿易統計は、輸出入とも増加したものの、原油輸入日量は減少、また、IEA担当者は、今年の世界石油需要の伸びは鈍化する一方、米州の供給は堅調との見通しを発言、需給緩和感が高まったことから、小幅に反落した。4月物終値は前日比0.20ドル安の78.93ドル。

週末3月8日は、中国の2月の自動車販売台数の鈍化が発表され、5日の今年の成長見通し発表と相まって、中国経済の成長鈍化懸念が高まり、続落した。4月物終値は前日比0.92ドル安の78.01ドル。

週明け11日は、先週末の軟調な米雇用統計を受け早期利下げ観測が高まるとともに、中国経済への警戒感から、わずかながら3営業日続落した。ただ、この日からイスラム圏はラマダン入りする中、パレスチナの停戦協議は進まず、緊張は継続している。4月物終値は前日比0.08ドル安の77.93ドル。

12日は、2月の米国消費者物価指数(CPI)が予想を上回る結果となり、利下げ観測が遠のいたことから、4営業日続落した。パレスチナ情勢の緊迫、この日発表のOPEC月報が本年・来年の需要見通しを据え置いたことが、下値を支えた。4月物終値は前日比0.37ドル安の77.56ドル。

13日は、米国石油週報が前週比で原油は予想に反し取り崩し、石油製品も予想を上回る取り崩しで米国需要の底堅さを示し、また、ウクライナがロシア最大級の製油所にドローン攻撃をしたことで、パレスチナの緊張と相まって、供給不安の高まりで、5営業日ぶりに大幅に反発、節目の80ドル目前に

迫った。4月物終値は、同2.16ドル値上がりの79.72ドル。

中東産バイ原油/東京市場(4月渡し)は、2月29日～3月6日の間、80.80～82.60ドルの範囲で推移。3月7日82.30ドル、8日83.00ドル、11日81.60ドル、12日82.50ドル、13日82.60ドル。

対ドル為替レート(TTM)は、2月29日～3月6日の間、150.05～150.67円の範囲で推移。3月7日149.02円、8日147.86円、11日146.82円、12日146.85円、13日147.53円。

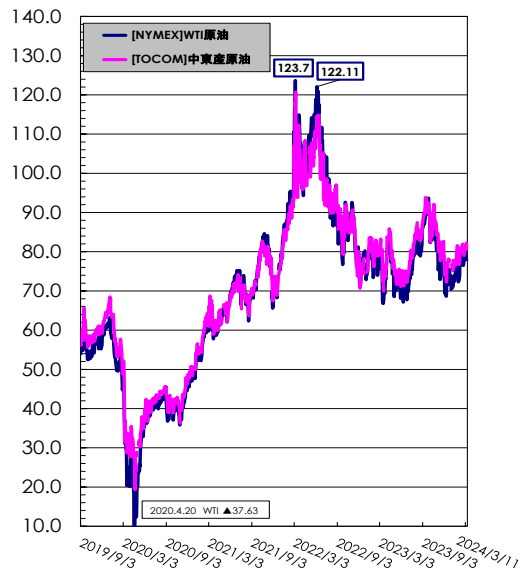
財務省が3月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、2月中旬の原油輸入平均CIF価格77,348円で前旬比770円安、ドル建て83.30ドルで前旬比0.83ドル安、為替レートは1ドル/147.63円。

そのような中で、3月11日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値下がり、軽油も同0.2円の値下がり、灯油は1円の値上がり(18リットルベース)、ガソリンの全国平均価格は174.3円となった。

3月14日～20日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は21.1円(補助金がない場合の次週予想価格195.9円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は10.9円)となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/3 ~ 3/9	2,789 ▲25	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.6 ▲0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	3/9	10,142 ▼-414	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	3/11	80.86 ▼-0.90	▲ 0.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	3/11	77.93 ▼-0.81	▲ 3.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	2月中旬	83.30 ▼-0.83	▼ -4.58
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	77,348 ▼-770	▲ 5,299
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	147.63 ➡0.00	▼ -17.28
	外国為替TTSLレート (¥/\$)	3/11	147.82 ▲3.26	▼ -12.48

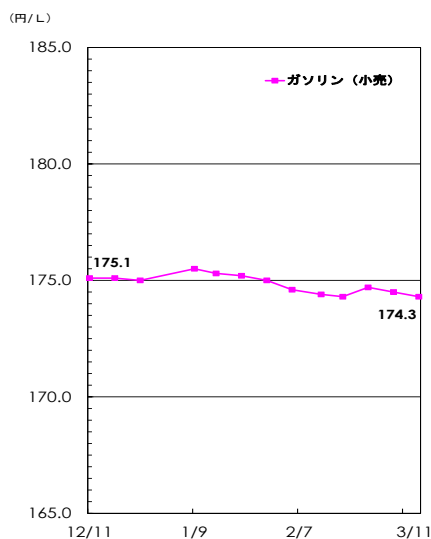
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/3 ~ 3/9	940 ▲ 157	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	815 ▲ 1	▲ -	
	輸出	"	79 ▼ -64	▼ -	
	在庫	3/9	1,676 ▲ 47	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/5 ~ 3/11	78.8 ➡ 0.0	▲ 5.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/5 ~ 3/11	81.0 ➡ 0.0	▲ 8.0
		(TOCOM/中部)	3/11	79.0 ➡ 0.0	▲ 5.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/11	174.3 ▼ -0.2	▲ 6.9	

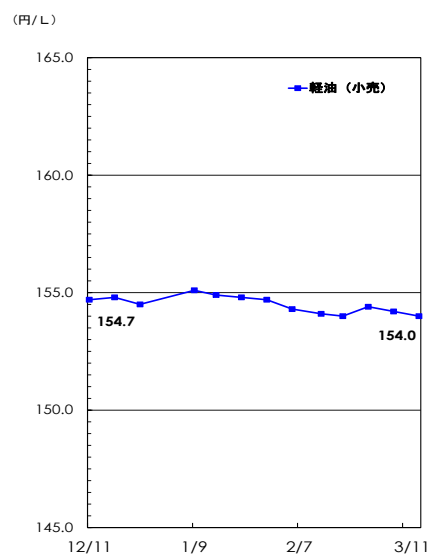
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

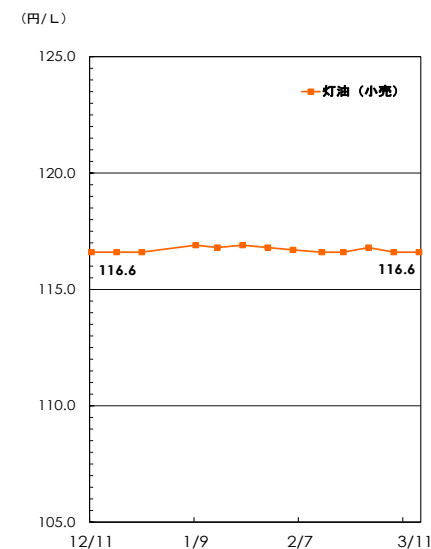
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/3 ~ 3/9	785 ▲ 119	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	655 ▲ 18	➡ -	
	輸出	"	246 ▲ 220	▲ -	
	在庫	3/9	1,464 ▼ -116	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/5 ~ 3/11	79.0 ▼ -0.3	▲ 4.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/5 ~ 3/11	82.7 ▼ -0.3	▲ 5.6
		(TOCOM/中部)	3/11	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/11	154.0 ▼ -0.2	▲ 6.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/3 ~ 3/9	179 ▼ -145	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	394 ▼ -77	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	3/9	1,311 ▼ -215	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/5 ~ 3/11	80.2 ▼ -0.2	▲ 4.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/5 ~ 3/11	81.9 ▼ -0.6	▲ 6.9
		(TOCOM/中部)	3/11	80.5 ➡ 0.0	▲ 4.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	3/11	116.6 ➡ 0.0	▲ 5.8	



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(3月7日~13日)のWTI石油先物市場は、7日、中国の景気後退懸念の中、続落の78.93ドルで始まり、米国の利下げ先送り観測の高まりで、ラマダン入りの中、パレスチナ情勢の緊迫化という値上がり要素もあったが、小幅に続落を続け、12日には77.56ドルとなった。ただ、13日には米国石油在庫の減少、ロシア製油所の被弾もあって、5営業日ぶり反発、79.72ドルで終わった。週を通じて、狭いレンジの中、80ドル目前の水準で推移した。

3月13日発表の8日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油前週比150万バレル減と、市場予想(同130万バレル増)に反する7週ぶりの取り崩し、ガソリンも同570万バレル減と、市場予想(同190万バレル減)を上回る取り崩しで、需要の好調さを示す内容だった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2024年3月3日~3月9日に休止したトッパー能力は35.3万バレル/日で、前週に対して10.3万バレル/日増加した(全処理能力は323.0万バレル/日)。

原油処理量は278.9万klと、前週に比べ2.5万kl増加。前年に対しては5.7万klの減少。トッパー稼働率は77.6%と前週に対して0.7ポイントの増加、前年に対しては0.8ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/20.1%増、ジェット/88.8%増、灯油/44.8%減、軽油/17.9%増、A重油/8.2%増、C重油/20.9%増。今週のC重油の輸入は横ばい。軽油の輸出は24.6万kl(前週比22.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)はガソリン、ジェット、軽油で増加し、他の油種で減少した。前年比ではガソリン、灯油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は81.5万kl(対前週0.0%増)と4週連続で増加した。ジェット13.1万kl(対前週8.8%増)、灯油39.4万kl(対前週16.3%減)、軽油65.5万kl(対

た。

EIAによると3月11日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.6セント高の1ガロン3.376ドル(131.7円/ℓ)と2週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.8セント安の1ガロン4.004ドル(156.2円/ℓ)と3週連続の値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、米国国内稼働石油掘削装置は、3月8日時点で、前週比2基減の504基と3週ぶりの減少であった。

前週2.8%増)、A重油23.5万kl(対前週12.5%減)、C重油7.7万kl(対前週59.6%減)。

(単位:千KL)

	今週 (3/3 ~ 3/9)	前週 (2/25 ~ 3/2)	前週比	
ガソリン	815	814	▲ 1	(0%)
ジェット燃料	131	120	▲ 11	(9%)
灯油	394	471	▼ -77	(-16%)
軽油	655	637	▲ 18	(3%)
A重油	235	269	▼ -34	(-13%)
C重油	77	190	▼ -113	(-59%)
合計	2,307	2,501	▼ -194	(-8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月9日時点の在庫はガソリン、ジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは167.6万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては0.5万kl多い。

灯油は131.1万kl、前週差21.5万kl減。前年に対しては13.8万kl多い。

軽油は146.4万kl、前週差11.6万kl減。前年に対しては25.7万kl多い。

A重油は66.9万kl、前週差1.9万kl減。前年に対しては1.3万kl少ない。

C重油は181.7万kl、前週差6.9万kl増。前年に対しては7.0万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (3/9)	前週 (3/2)	前週比	
ガソリン	1,676	1,629	▲ 47	(3%)
ジェット燃料	733	665	▲ 68	(10%)
灯油	1,311	1,526	▼ -215	(-14%)
軽油	1,464	1,580	▼ -116	(-7%)
A重油	669	688	▼ -19	(-3%)
C重油	1,817	1,748	▲ 69	(4%)
合計	7,670	7,836	▼ -166	(-2.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月5日～11日のドル建て中東原油価格は値上がりしたが、為替レートの円高がこれを相殺、円建て輸入原油価格はわずかに値下がりし、元売会社の卸価格建値は値下げになったものと見られる。

上記コスト下げに、補助金減額分を考慮すると、3/14～3/20の実質卸価格はわずかに値下げとなった模様。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

3月5日～11日の製品スポット市況は、2月27日～3月4日平均と比べ、ガソリン・灯油の海上取引が値上がり、ガソリンの陸上取引・先物取引が横ばい、灯油の陸上取引・先物取引、軽油の全取引が値下がり、とまちまちな結果だった。

直近週(3/5～3/11)の陸上スポット価格平均値は、前週(2/27～3/4)比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.2円の値下がり、軽油も0.3円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(3/5～3/11)に、前週(2/27～3/4)比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油も0.9円の値上がり、軽油は0.8円の値下がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.6円の値下がり、軽油も0.3円の値下がりだった。

(お知らせ(6ページ)をご参照ください。)

(RIM)		(単位: 円/%)		
(陸上ローリー4地区平均)	今週 (3/5～3/11)	前週 (2/27～3/4)	前週比	
レギュラー	78.8	78.8	→ 0.0	
灯油	80.2	80.4	▼ -0.2	
軽油	79.0	79.3	▼ -0.3	

(TOCOM)		(単位: 円/%)		
(期近物/終値[平均])	今週 (3/5～3/11)	前週 (2/27～3/4)	前週比	
レギュラー	81.0	81.0	→ 0.0	
灯油	81.9	82.5	▼ -0.6	
軽油	82.7	83.0	▼ -0.3	

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/5～3/11実績値)				(単位: 円/%)
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	→ 0.0	→ 0.0	→ 0.0	
灯油	▼ -0.2	▼ -0.6	▼ -0.4	
軽油	▼ -0.3	▼ -0.3	▼ -0.3	
A重油	▼ -0.5			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

3月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円安の174.3円、軽油も0.2円安の154.0円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで1円高の2,099円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは横ばいの116.6円。ガソリンは2週連続の値下がり、軽油も2週連続の値下がり、灯油は2週ぶりの値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが13都県、横ばいは岡山等8県、値下がりが26道府県だった。全国最安値は徳島県の166.6円、その次は宮城県の168.4円であった。他方、最高値は長野県の184.4円。最も値上がりしたのは沖縄県(同0.7円高)、最も値下がりは長崎県(同1.5円安)だった。

次回調査時(3/18)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(資工庁公表)		(単位: 円/%)			
[週動向]	今週 (3/11)	前週 (3/4)	前週比	直近高値	
レギュラー	174.3	174.5	▼ -0.2	23/9/4	186.5
灯油	116.6	116.6	→ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	154.0	154.2	▼ -0.2	08/8/4	167.4

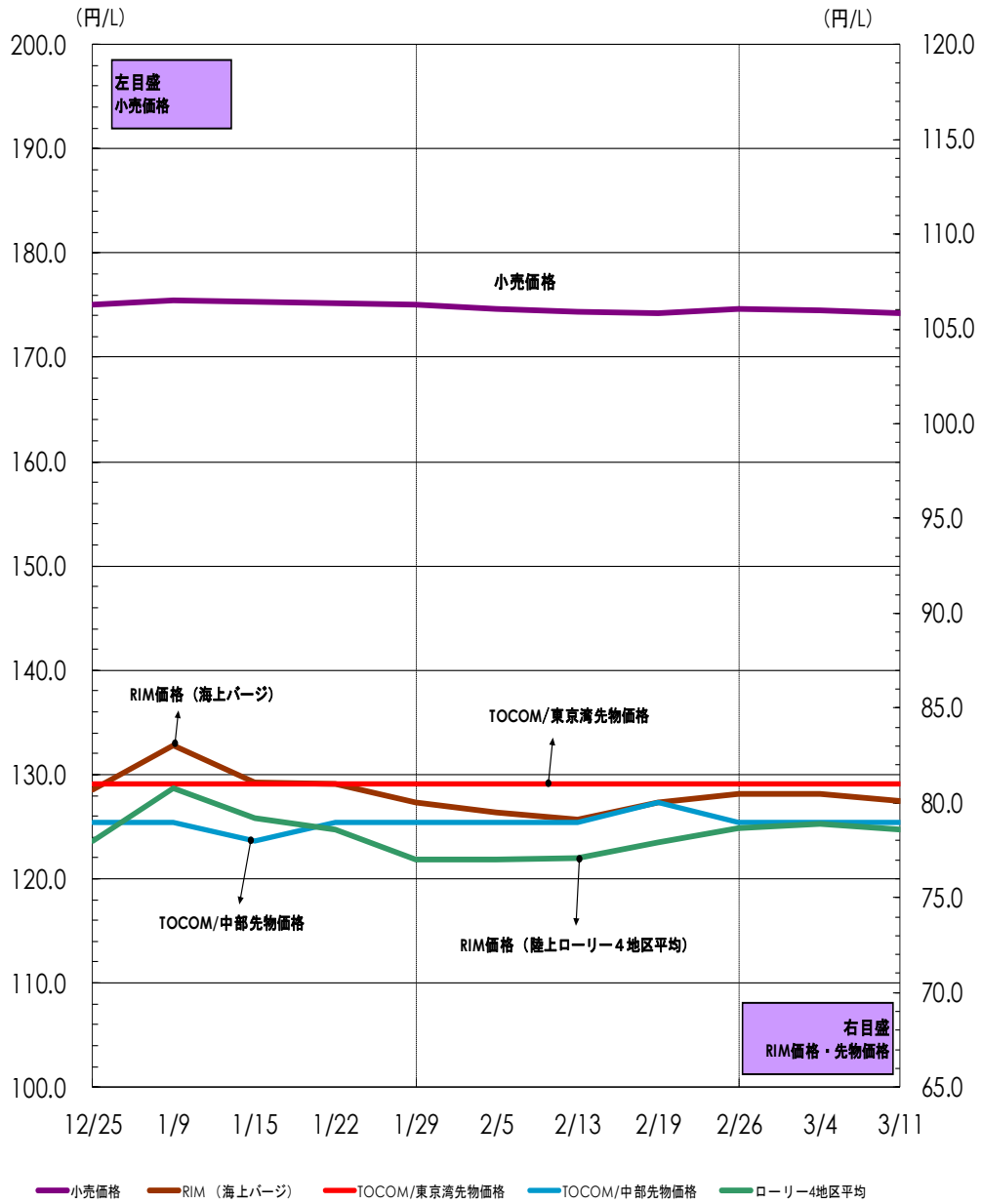
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2023/12/25 ~ 2024/3/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回 (2023第48号) の公表は、3/22 (金) 14:00 です。

### お知らせ

新年度、本レポート第50号 (4月5日) より、紙面の改訂を予定しています。近年の石油流通の構造、石油製品の価格形成等の状況変化を踏まえ、掲載情報の入れ替え、順序の整理などを行います。特に、4ページの3 (2) の「業転価格」については、表を含め、掲載を取りやめることとします。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。